

## 建物概要

建設地：富山県富山市五福3190（富山大学五福キャンパス）

建築面積：2,399㎡

延床面積：6,378㎡

階数：地上4階

構造：鉄筋コンクリート造一部鉄骨造

基本設計：富山大学施設企画部施設計画チーム

実施設計：株式会社 山本・堀アーキテクツ（建築）

株式会社 新日本設備計画（設備）

工事監理：富山大学施設企画部施設計画チーム

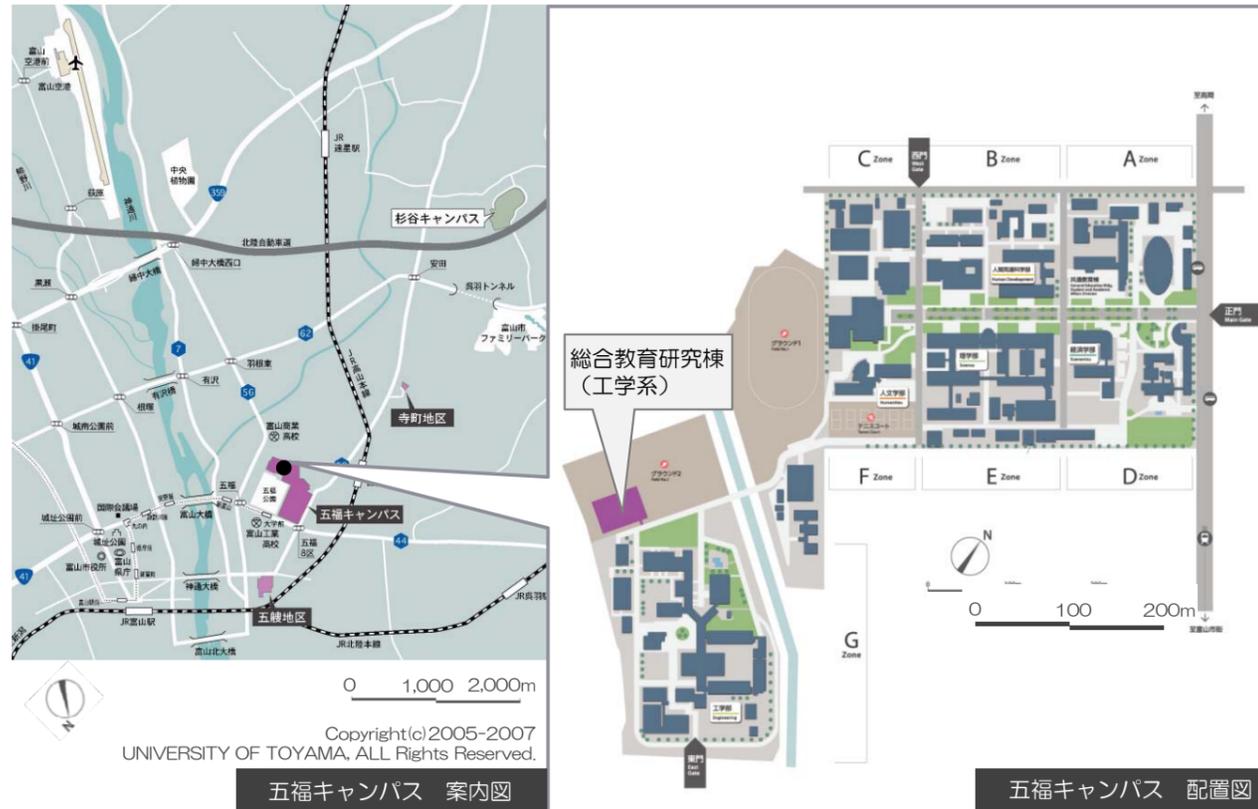
施工：株式会社 浅沼組

工期：平成25年11月～平成27年1月

# 富山大学総合教育研究棟（工学系）

Education and Research Building, University of Toyama

## 五福キャンパス



外観イメージ



2015.1

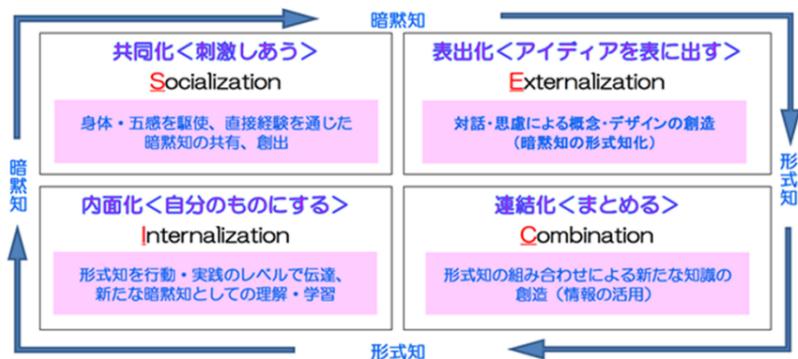
## 『イノベーション』にふさわしい工学部の新しいFacade【顔】を創る

### コンセプト

- 『そと』と『なか』の空間をリニアにつなげ、様々な人との交流を促す。
- SECI行動モデルに習い、多様な『イノベーション』創出行動を誘引する。

### SECI行動モデル

暗黙知・形式知の相互作用による知識創造行動  
(アクティブラーニング&イノベーション創出プロセス)

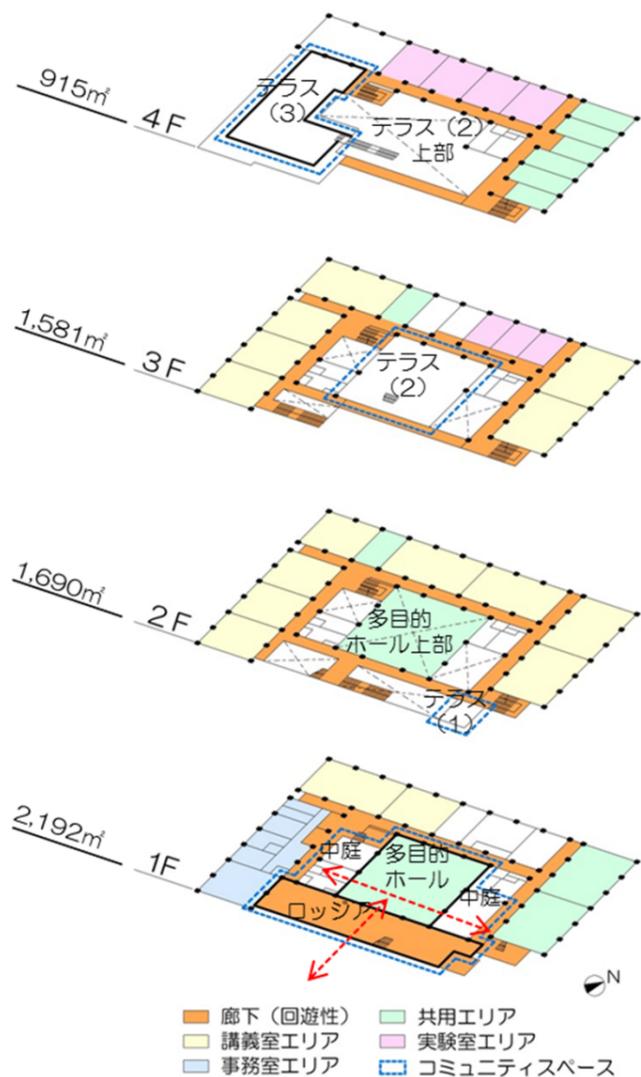


＜「知識創造企業」1996年より引用＞

## 『そと』と『なか』の空間の連続性

### 平面計画

SECI行動モデルの具現化として、多目的ホールやテラスを取り巻く『口の字』型の平面構成とし、知識創造行動を誘引する回遊性のある平面計画としている。また、空間の接続としてエントランスから広がる開放的なロジャアや中庭・テラス等のコミュニティスペースを設けることにより、教職員・学生の多様な躍動的な空間を創出している。

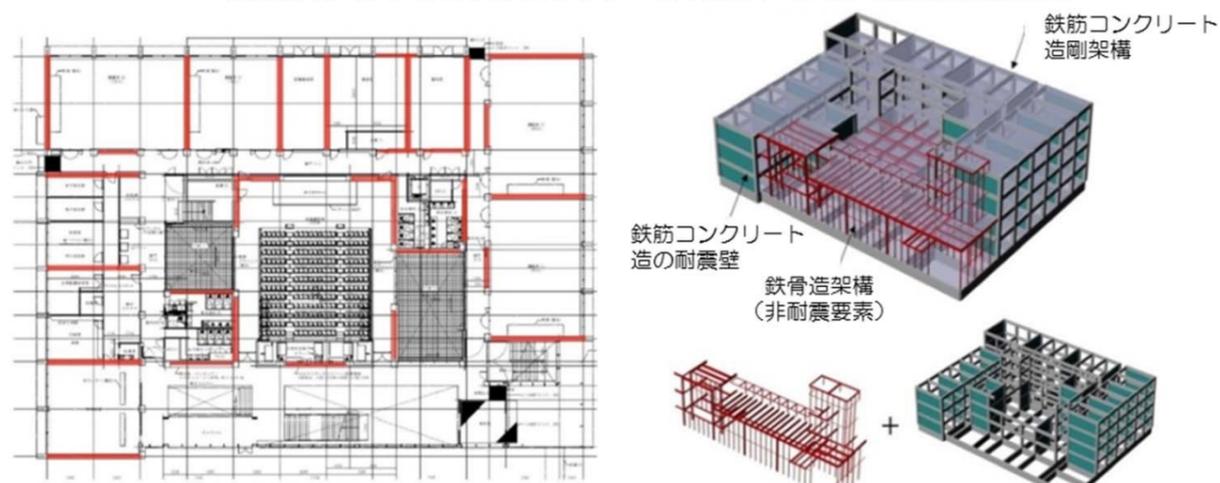


### 構造計画

## 高い水平強度を有する『強度型の耐震計画』

当該敷地は呉羽山活断層に隣接するエリアであり、大規模地震に対して十分な配慮を行う必要がある。本計画において鉄筋コンクリート造の耐震壁をバランスよく配置し、かつ通常求められる重要度係数  $I=1.25$  に対して  $I=1.3$  以上を耐震性能として持たせ、より高い水平強度を有する強度型の耐震計画とした。

また、講義室・研究室等の比較的壁の多いエリアは耐震壁付剛架構とし、開放的なエントランスやロジャア・多目的ホールは、鉄骨架構とした。



【耐震壁配置 (1F)】  
赤線 (—) 部: 鉄筋コンクリート造の耐震壁 (t=400・500程度)  
※南北・東西ともにバランスよく配置し、地震に対して安定した性能を有する耐震計画とした。

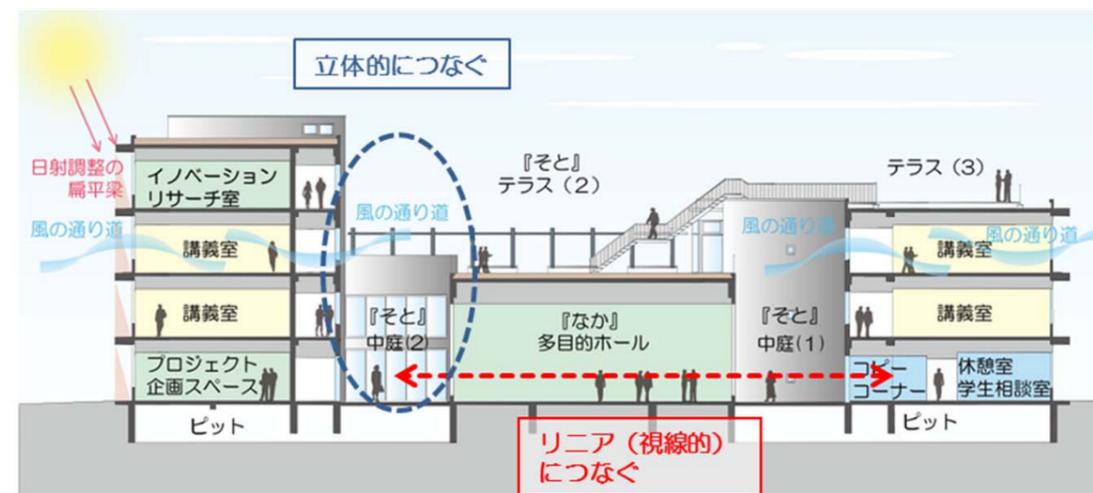
ロジャア部: 鉄骨造架構  
講義室エリア: 鉄筋コンクリート造剛架構 (耐震壁付剛架構)

### 【架構コンビネーション】

## 『空間』をつなぐロジャア・多目的ホール

### 断面計画

1階・2階には開放性の高い多目的ホールを、3階・4階には講義室エリア及び実験室エリアを配置し、1階から3階までをロジャアや中庭といったヴォイド (吹き抜け空間) によって立体的につないでいる。ロジャアは集会のホワイエとしても機能するなど、学会等の催しに対応するとともに、地域に開かれたグローバルでイノベーション活動に相応しい空間構成としている。



### 施設整備による効果

## 『イノベーション創出』『グローバル化』に対応した人材育成が可能

- ラーニング環境が改善され、安全で高効率な教育に加えて、アクティブで多様な教育が可能となり、問題解決に十分な対応力を有する人材養成が可能となる。
- グリーン・ライフイノベーション等の富山大学発プロジェクトの推進拠点となる。
- JABEE (日本技術者教育認定機構) をはじめとする国際的な水準の教育プログラムを実践し、グローバル化に対応した人材育成につなげる。
- CASBEE (建築物総合環境性能評価システム) は、環境性能効率評価Aランクを獲得した。